

報道関係者各位

2017年10月12日

平成29年度「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」 建設・住宅・不動産部門で7回連続8回目の1位を獲得

大東建託株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:熊切直美)は、公益社団法人日本証券アナリスト協会(以下、アナリスト協会)が実施する、平成29年度「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」の建設・住宅・不動産部門において、7回連続の8回目となる第1位を獲得しましたのでお知らせします。

【証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定制度とは】

公益社団法人日本証券アナリスト協会が実施する制度で、企業のディスクロージャーの促進・向上を目的に1995年から継続しており、証券アナリストの立場から、企業のディスクロージャーの質、量、タイミング等の優劣を判断するための客観的な評価基準を策定し、これをもとに優良企業を選定しています。

■評価ポイント概要(選定結果通知資料より抜粋)

1)経営陣のIR姿勢等(2位)

- 経営陣が説明会に出席し現況を伝えようとする前向きな姿勢
- 投資家との対話を経営に活かしている
- IR部門に十分情報が集積されており、同部門の機能が充実している
- 経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされている

2)説明会等(1位)

- 説明会、短信および説明会資料等において、実績および計画を明記し、理解を深めるような十分な説明がなされている
- 質疑に対する会社側の回答が十分満足できるなど、説明会、インタビューにおける開示
- 部門別の受注、利益率、売上げ見通しが十分開示され、詳細で充実した説明資料となっている
- 四半期決算の内容の理解に必要な補足情報やタイムリーな話題の掲載などを十分に開示している

3)フェアディスクロージャー(1位)

- 情報開示に際し不公平が生じないように配慮して、説明会の質疑応答の要旨をホームページ上で情報提供をしている
- 月次受注の開示が充実している

4)コーポレート・ガバナンス関連(1位)

- 具体的な株主還元策の数値目標を明示している

5)自主情報開示(2位)

- 統合報告書の内容が充実している
- 粗利益率の増減要因が開示されている

ディスクロージャー
2017年度 優良企業



SAAJ 日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

ディスクロージャー優良企業に贈られる
「優良企業ロゴマーク」

(参考)大東建託のこれまでの順位

年度	順位
平成29年度	第1位
平成27年度	第1位
平成26年度	第1位
平成25年度	第1位
平成24年度	第1位
平成22年度	第1位
平成21年度	第1位
平成20年度	第2位
平成19年度	第3位
平成18年度	第1位

※平成23年度および28年度は、建設・住宅・不動産部門での評価は休止

■表彰式の開催

本件に関する表彰式が10月13日(金)17:30より開催されます。

詳細は、アナリスト協会へお問い合わせください。(http://www.saa.or.jp/standards/disclosure/index.html)

＜本件に関するお問い合わせ＞

大東建託株式会社 経営企画室 出澤・和賀 TEL:03-6718-9174